

すなお

令和元年11月号



第五号 二十

おやのことば
このさ hari
てびきい けんも
りいふくも
みなめへめへに
しやんしてみよ

会長

おぢばでの生活も二ヶ月目に入り、毎日があれよあれよという間に過ぎ去つていき、今月の九日は朝の最低気温が五度で一気に寒くなり、グツと身が引き締まるような思いがしました。その中私は、先月と同様、時間を惜しんでひのきしんに励まして頂いています。詰所生活にも慣れてくると良い部分もありますが、逆に小さな事が気になりだしたりして（本当にまだまだな）と反省しきりです。

おふでさきの「さ hari」とは一般的に病気やケガのことを指しますが、その中には信仰を伝えたいための「手引き」であつたり、心の向きを変えるための「意見」、神様の「立腹」であつたりします。その思いはそれぞれが思案をしなさい、と仰せられてあります。ふと、神様も腹を立てるのか？とも思つたりますが、時に「残念」というような表現もありますから、そなんでしょう。

ですから、病気やケガも同じ病気であつてもそれぞれの心の成人・成長に合わせて思いをかけて下さつてゐるところが分かれます。例えば小学生に出す問題と大学生に出す問題が同じではないですし、同じ大学生でも学力に応じて問題も変わるでしょう。どうか、その時々に見せて下さる「さ hari」から親神様の思いを悟り、喜びに切り替えておつとめ下さい。



すなお (立教182年11月号)

通 巻
發行所

No.712
天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
發行日 2019.11.16
二宮英治

責任者

親神様のご恩も同じだと思います。この道は「ご恩報じの道」ともいいますが、ご恩を感じなければ通れないのです。親神様のご守護を有難いと思う心があればこそ、「させてもらいたい」「やらずにおれない」という気持ちになるのです。

私たちが毎日こうして元気でいられるのは第一に親神様のご守護のおかげです。そして、産み育ててくれた親のおかげ、周囲の人たちのおかげ、学校の先生のおかげもあれば、仲間のおかげもあるでしょう。実は、人間はこうしたおかげを感じ、「恩」を感じて、それに応えようとするなかに、「生き甲斐」や「喜び」を見いだし、「幸せ」を味わうことができるのです。～後略～



「来て良かった」

二宮信代

中和としての女子青年大会参加は初めてでしたが、話してみるとどこかで繋がりがある人達ばかりでとても楽しい時間でした。

私よりも若い子達が勇んで御用につとめている姿に感動し、自分も人のためにとさっと動けるように普段から意識しないとなと思いました。

おぢばでの行事はいつも終わってから「来てよかったです」と感じます。また明日から普段の生活に戻りますが、今日の気持ちをできるだけ長く続けられるようがんばります。

教会ニュース

本部女子青年大会開催

11月3日（日）に本部にて女子青年大会が開催され、二宮信代さん（上記にて参加感想掲載）、二宮真帆さんが参加されました。

大教会ようぼくおつとめ総会

今月23日（祝）に大教会にてようぼくおつとめ総会が開催されます。大教会創立130周年祭に向かう行事の一つです。代表2名が今回は参加してくれますが、参加されない他の方々もおつとめに真剣に向かって頂き、おつとめ練習も重ねてつとめて下さい。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

10月には54,640円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



奇跡の毎日

鈴代

長い闘病生活の末 元気になって職場に復帰された方がおられました。本人はもとより家族の人の喜びは大変なものでした。

「枯れ木に花が咲いた 奇跡だ！」と大喜びしました。いつ尋ねても家の中は、笑顔で満ち溢れていました。

「再び元気になれた事が奇跡なら、今日健康においてもらってる私は奇跡の連續だ」と改めて思いました。

思い通りに動いてくれるこの体、当たり前だと思っていないだろうか、感動と感謝がまだまだ足りなかったなあと改めて思いました。

元気なことが当たり前で、その上にあれもこれもと求めていたとすれば、本当に申し訳ないと思いました。

まずは感謝、喜んで暮らしたいですね

「よろこんでくらすもの、よろこばさずにおけん」教祖のお言葉です。

今日の私の心、ちゃんと見てくださっているよね。



「感謝」から「報恩」へ

深谷 善太郎著『だけど有難い』から

～前略～

私は「感謝」という言葉は、「報恩」という言葉と結びつかないことには、あまり意味がないと思うのです。たとえば「親に感謝します」と口にするだけでなく、親に育ててもらった「恩」、産んでもらった「恩」を感じることが大切だということです。「恩」には「返す」という行為が伴います。そう言うと、嫌々させられると感じる人もいるかもしれません。しかし実際には、恩を感じたら返したくなるものではないでしょうか。たとえば恩師に贈り物をするときに、嫌々する人はいないでしょう。何を贈ったら喜んでくれるだろうかと、品物を選んでいるときからうれしいものです。恩返しとは、そういうものだと思います。

親に恩を感じると、それを返したくなる。これは親孝行です。親孝行というのは、しなければならないからするのではなく、せすにおれないからするのです。